No. 19

Autumn 1995

ボランティアの意義



○望月正夫1995

The meaning of volunteer

In an international survey on volunteering, to the question "Would you like to be a volunteer?" Japanese response was overwhelmingly Yes." However to the question "have you actually done any voluntary work or do you belong to any voluntary organization, Japanese ranked lowest among all nationalities.

The word volunteer in Japan has somewhat romantic or idealistic connotations simply because few people have practical experience of being one. Since the earthquake the meaning of the word "volunteer" has become a reality. How many volunteers thought idealistically it would be a nice thing to be and then when faced with the hard reality of working long hours, unpaid, unpraised, often in uncomfortable dirty situations, gave up in disappointment and returned to their comfortable homes and convenient life-style. For those that have stuck it out however, it is probably the greatest experience of life they could ever have. Through it they will have matured, become more sensitive and less self-centred.

We have had many volunteers at ARK since the quake. Some found the long hours and hard physical work too much and gave up. Others came with no knowledge of practical work nor of animals but were willing to learn and benefit from the experience. Most have worked uncomplainingly and concienciously with the welfare of the animals uppermost in their minds.

Our thanks go out to all of them, for without them we could not have rescued and cared for so many earthquake victims. Some reflections on being a volunteer at ARK can be found in this newsletter.

日本におけるボランティアという言葉は、実際に その経験をする人が皆無に近いため、いくぶんロマ ンチックかつ観念的な響きをともないます。このこ とは次ぎの事実によっても窺い知れます。ボランテ ィアに関するある国際的調査によると、「あなたは 社会におけるボランティアの意義を認め、またそれ をしてみたいと思いますか。」という問いに対する 日本人の回答は圧倒的多数が「はい」なのです。と ころが「あなたはこれまで実際に何かボランティア 括動をしたことがあるか、現在そのような団体に参 加していますか。」という問いに対し「はい」と答 えた日本人の数は、調査中最低だったのです。とは いえこの「ボランティア」という言葉の意味は、阪 神大震災以降現実味を帯びるものになりました。そ れ以前はどれほどの人が、ボランティアはいちどや ってみたいものくらいに観念的に考え、しばしば衛 生状態のよくない、長時間のにおよぶ無報酬で、誰 に誉められるわけでもない仕事といった過酷な現実 に直面し、失意のうちにあきらめて、何不自由のな い自分の家庭、便利な生活に戻っていったことでし ょう。しかし最後まで頑張り通した人たちにとって はおそらくこれまで決して経験できなかった大きな 人生経験であることでしょう。そういった人たちは ボランティア活動を通じて精神的な成長をし、繊細 で思いやりの気持ちも持つようになるのではないで しょうか。一月の震災以来アークには多くのボラン ティアが訪れて来ました。そのうち何人かは、長時 間にわたるここでの体を酷使する労働を大変に感じ、 やめていきました。またある人たちは、そのような 仕事や動物と接する実際の経験がまったくないにも かかわらず学ぼうという意志を示し、その有意義な 時間から多くを得たのでした。ほとんどの人たちが 不満ももらさず、確固とした意識をもって動物たち の幸せということを至上の目的として働いてくださ いました。アークではこれらのボランティア方々に 深く感謝いたします。この方々なしでは、震災の犠 牲者である実におおくの動物たちを救助・保護し、 世話をすることはとうていできなかったことでしょ う。次ページのアーク・ボランティア回想記もあわ せてお読みください。